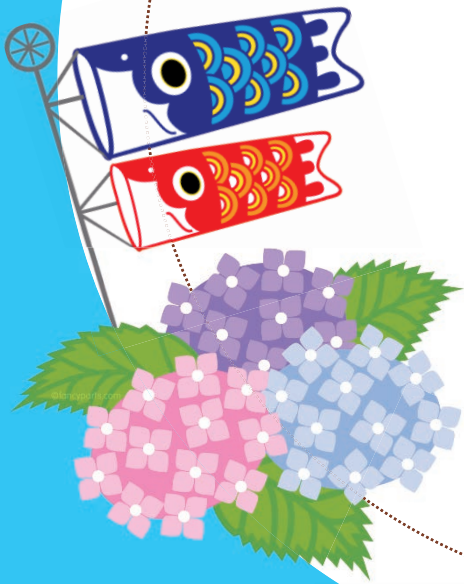
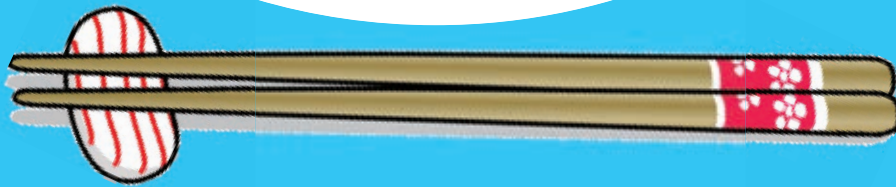


食 べ る



2016
MAY
Vol.7



口から食べることは
生命をはぐくむ根幹である
美味しく食べることは
今ここにある喜びを
噛みしめることであり
生きる希望である
口から食べて幸せに暮らせる
優しい社会になるよう
力を注ぎたい！



- 理事長・副理事長挨拶
- 会員情報・テレビ出演のお知らせ
- 熊本地震での震災支援活動報告(1)(2)
- 活動紹介(岡山)
- 今後の予定・大会のお知らせ

理事長挨拶

NPO 法人口から食べる幸せを守る会 理事長
第4回全国大会大会長 小山 珠美

拝啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素から当NPO法人の活動におきまして、多大なるご理解とご支援を賜りまして厚く御礼申し上げます。このたび会報誌7号「食べる」を発行致しました。

まずは、4月14日に発生した熊本地震で被害に見舞われた方々にお悔やみとお見舞いを申し上げます。生まれ育った故郷の甚大な惨事に形容しがたい衝撃が走りました。なんとか家族や現地のKTSM会員の皆様の無事は確認できましたが、被害の大きさに多くの方が困窮していらっしゃいます。当NPO関係者も余震が続くなか、早急に現地入りして熊本の皆様と一緒に避難所での支援活動を行いました。ご尽力いただきました前田医師をはじめとする玉名医療センターの皆様、桜十字病院の皆様、直接支援で活動してくださった方々、後方的支援をいただいた皆様本当にありがとうございました。まだまだ復旧には多くの課題を抱えておりますが、必ずや熊本は“もっこす魂”で復興できると確信しています。今後もお支援くださいますようよろしくお願い致します。

さて、KTSM第4回全国大会を7月2日に開催予定です。今回のスローガンは“多職種で繋ごう食の憩い”としました。食べることへの支援が多職種の仲間たちで広がりを見せています。また、口から食べることを支援する成果としてのエビデンスや実績も拡大しつつありますので共有できると思います。

なお、今回の大会では、一部プログラムを変更して、熊本地震での支援活動の実際を紹介します。是非、多くの方々にお集まりいただき、幸せに生きるための食支援の輪を広げていただければと思います。皆様のご健勝とご多幸を心から祈念しております。



はじめて実現された災害急性期の食支援

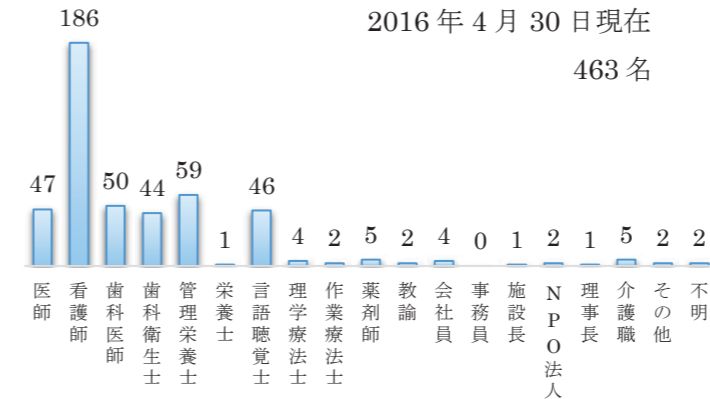
NPO 法人口から食べる幸せを守る会 副理事長
山梨市立牧丘病院 古屋 聡

東日本大震災で口腔ケアや食支援の経験があるわれわれは、災害の直後から、清潔・栄養・運動機能の危機が被災者をおそい、静脈血栓や肺炎など深刻な健康被害のリスクが高まることをよく知っていた。いっぽうで、災害直後の混乱期に、被災地全般の初期評価と活動場所の決定・活動基地や物資保管の場所の選定・人員と物資の管理を行えるロジスティックスの整備・災害対策本部や医師会や支援団体などいわゆるステークホルダーとの調整など多岐にわたる問題をクリアして、直接活動にあたるための困難についても経験があった。これを乗り越えることができた要因は、一番に前田医師ら玉名メンバーの存在とすぐれた初期活動であり、小山珠美理事長・竹市美加副理事長を代表としたKTSMメンバーの非常に迅速な支援活動への参加意思であった。古屋は18日午後に玉名入りし、前田医師と合流してもっとも深刻な被害のあった益城町に赴き、19日夜まで活動した。すぐれた初期活動を実現した仲間を尊敬している。



会員情報

■正会員（個人）



■賛助会員（団体）

- ・イオン株式会社
 - ・株式会社天柳
 - ・株式会社ヘルシーネットワーク
 - ・医療法人 社団晃和会
 - ・株式会社東京技研
 - ・ニュートリー株式会社
 - ・株式会社オーラルケア
 - ・株式会社ニシウラ
 - ・ラックヘルスクエア株式会社
 - ・株式会社クリニコ
- (50音順)

～会員ご継続のお願い～

2016年度の会員募集を開始しております。

お申込はホームページからお願い致します <http://ktsm.jimdo.com/>



テレビ放送のお知らせ

番組名：「プロフェッショナル 仕事の流儀」

副題：「食べる喜びを、あきらめない -看護師・小山珠美-」

放送予定：本放送 5月16日（月）22：25～23：14 総合テレビ

再放送 5月23日（月）15：10～15：59 総合テレビ

(※番組編成の都合により放送日は変更になる可能性があります。)



熊本地震での震災支援活動報告(1)

災害急性期の食べる支援

玉名地域保健医療センター摂食嚥下栄養療法科 医師 前田圭介

災害急性期には高齢者へ十分な食べる支援が行われない可能性が高い。公的団体の介入が定着し始めるまでの間に「空白期間」が起こりえる。熊本地震ではこの空白期間に早期介入することができた。

1) 超早期リサーチ、2) 口腔ケア、栄養・水分補給、食事介助方法 活動量維持の啓発、3) 現場介入のための迅速な物資調達、4) フロアレベルで直接ケアを行う人員の確保と行動、4) 公的団体情報収集と関係づくり、6) その他折衝が大きなノウハウである。1) 2) 3) には玉名地域保健医療センターの後方支援、2) 4) にはKTSMの熟達したチーム力、4) 5) には牧丘市立病院古屋聡先生のご尽力、3) にはSNSで繋がった全国の有志の力が大きく貢献した。関わった全ての方へ感謝申し上げたい。

熊本地震「必要な物を必要な人へ」災害急性期の後方支援

玉名地域保健医療センター医療連携室 看護師・社会福祉士 榎本淳子

避難所の高齢者へ「食べる支援」を早期に着手する必要性を感じた私達は、本震翌日、かき集めた口腔ケア物資を持参し震源地であったとされる益城町に入った。すぐに、KTSMを通じた仲間からの物資提供の申し出があったが、発震直後から熊本県全域へ配送が停止したことを知った。様々な案を考え、隣県の大牟田郵便局（福岡県）に交渉した。その結果、郵便局留めの窓口で物資を応急的に受取り、私が11小口の初期物資を被災地に届ける事ができた。その後、当院を物資保管庫として設置し、必要な物資を必要な人へ届ける事が出来た。KTSMのネットワークが、早期の食支援サポートを可能にしたと確信している。甚大な被害を受けた地元熊本で、KTSMの仲間と一緒に物資提供、実務支援などの活動ができた事を誇りに思う。形容し難いほど心から感謝している。

熊本地震摂食サポートチームに参加して改めて学んだこと

南相馬市立総合病院 医師 社本博

ある日突然起こる自然災害で高齢者が避難生活を余儀なくされる。避難所で、疾病予防や日常生活ケアを突然奪われる様は、まるで肺炎で入院し安静臥床・絶食を強いられたり、不適な食物形態での食事提供、不良姿勢、口腔不衛生で低栄養や二次性合併症を続発する医療現場と酷似する。災害時での食支援のキーワードは、初動、包括的介入、多職種連携、そしてその先を見据えたマネジメントである。そして、何より重要なのは現場でニーズを待つのではなく、自発的にニーズを発見し、対象者に適切な評価や介入ができる力を備えつつ発揮することである。災害時食支援は一人では難しいかもしれないが、チームを作れば実現可能だということを今回改めて学んだ。

要介護高齢者に対する避難所での食べる支援

医療法人桜十字病院 看護師 建山幸

避難所には在宅介護を受けていた要介護高齢者が避難しており、様々な理由で配給された食事を全量摂取できなくなっていた。今回、発震急性期での直接支援活動で用いたKTバランスチャートは、誤嚥性肺炎などの二次的合併症が起こり得るチャートを示しており、早期に包括的な食支援が必要であることの具体性を抽出できた。その結果に即して、口腔ケア・ポジショニング指導・ダンボールベッドの導入・補助栄養食品や温かな粥の提供などの食支援を行い、嚥下能力の維持・二次的合併症予防に努めた。食べる事が困難になっていた要介護高齢者が、サポートチームの支援により、温かな笑顔に包まれたひとときを決して忘れない。

熊本地震での震災支援活動報告(2)

熊本地震で被災した要介護者に対して多職種連携で摂食サポートを行った経験

社会医療法人帰巖会 みえ病院 看護師 安部幸

熊本地震の発震直後、古屋医師のSNSの呼びかけをうけて、初動のボランティアに参加することを決めた。それは、東北地震のときに誤嚥性肺炎で多くの方が亡くなったことに後悔があったからである。避難所では口腔ケア、摂食方法、栄養ケア、姿勢調整、活動援助などを多職種で行った。被災自治体が混乱する震災急性期は、ボランティア団体の医療従事者がニーズの高い要介護者を早期発見、介入し、適切な地域医療従事者に繋げることで、二次災害予防が可能になる。避難所生活で苦勞されている要介護高齢者の奥様から「あなたたちに会えたことが、不幸中の幸せじゃ」との言葉をいただいたときは「口から食べる幸せ」に関わって本当に良かったと思った瞬間だった。

被災地での食支援活動を通して思うこと

NPO 法人口から食べる幸せを守る会 副理事 竹市美加

熊本地震で避難所への早期支援介入を開始したのは、自らが被災しながらも奮起した地元の支援メンバーであった。私たちの活動は、医学的視点だけでなく、生活の視点でフローを回り避難者に声をかけていくことで、誤嚥性肺炎、ADL低下、低栄養・脱水などの二次合併症の予防への食支援となった。また、お粥提供への働きかけなど、大きな結果につながる活動となった。今回の支援活動を通して、生活を見据えた包括的支援の重要性、その場での臨機応変な技術提供の必要性を改めて実感することができた。今後、「口から食べる幸せを守る」活動を継続すると共に、実践力・マネジメント力を持つ人材育成を目指したい。今回関わった素晴らしい仲間、遠方から支援してくれた全ての人達への感謝をもって、一日も早い熊本の復興を願っている。



支援メンバーと活動の様子

活動報告

地域包括ケア病棟における摂食嚥下チームの役割

社会医療法人清風会 日本原病院 言語聴覚士 平尾 由美



【はじめに】当院は回復期病棟から地域包括ケア病棟へ変更後、摂食嚥下チームの役割に変化がありました。症例から地域包括ケア病棟での役割について検討します。【事例紹介】88歳女性、要介護5。5年前骨折後、寝たきりとなり誤嚥性肺炎を繰り返されていました。今回肺炎治療後リハビリ目的で入院。入院前は入浴サービスのみ利用され、ベッド上で端座位が安定しないため体を抱えて食事介助されていたそうです。チームでのKTバランスチャート評価の結果から、入院中のリハビリ実施と退院へ向けたサービスの提案を的確に行うことができ、在宅へ戻られました。【考察とまとめ】本症例の繰り返す肺炎の原因として在宅での食事環境とサービス利用が少ないことが考えられました。地域包括ケア病棟は2か月の入院から在宅復帰を目指すため、的確なリハビリと「口から食べる」介護サービスへの働きかけが重要となります。そのためKTバランスチャートによる包括的評価と包括的ケアが、地域包括ケア病棟における摂食嚥下チームの役割であり、医療から介護への架け橋となることが期待されます。



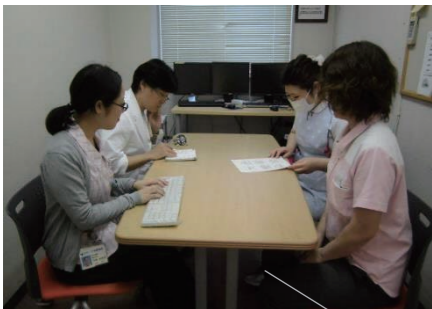
リハビリスタッフによるポジショニング



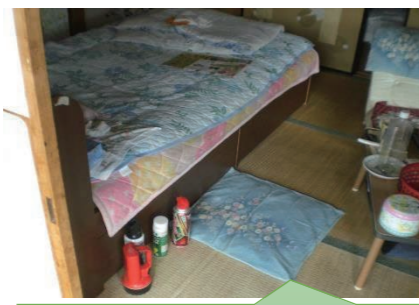
食事動作の評価 看護師・介護士も同席した嚥下スクリーニング



KTバランスチャートの評価に沿ってプランニング



医師を含めたカンファレンスで在宅への申し送りをまとめる



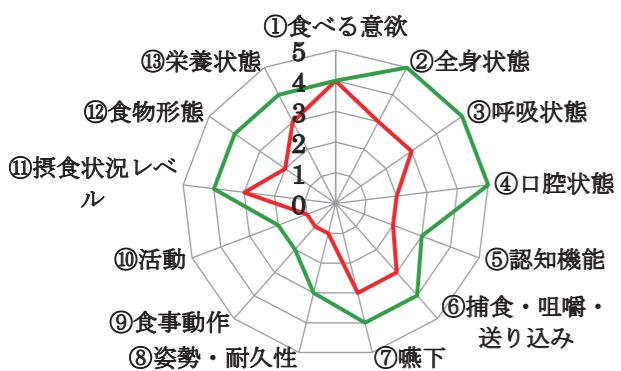
ベッドがギャジアップできないので電動式ベッドの導入を提案



口から食べる幸せを在宅へ！
地域包括ケア病棟摂食嚥下チーム♡

写真の掲載はご本人・ご家族の同意を得ています

KTバランスチャート



KTバランスチャートからのプログラム

- ➡入院時評価から入院中のリハビリプログラムを決定
 - ①離床を進め活動量の向上
 - ②食事時を含め姿勢、耐久性の向上
 - ③口腔ケアと食物形態の見直し
- ➡退院前評価から、在宅へ具体的案を提供
 - ①離床、活動を増やすためのデイサービスの利用
 - ②食事姿勢のための電動式ベッド導入
 - ③食事形態、口腔ケアの情報提供

2016年度KTSM実技セミナー開催一覧

*実際と異なる場合がありますので、最新情報はホームページをご確認ください

回数	日時	開催場所	コース	募集人数
27回	4月24日(日)	秋田県湯沢市	基礎&スキルアップ	40
28回	4月29日(金)	宮城県気仙沼市	基礎&スキルアップ	40
29回	5月7日(土)	北海道函館市	基礎	30
30回	5月21日(土)	宮城県古川市	基礎	30
31回	7月23日(土)	宮崎市	基礎	未定
32回	8月7日(日)	秋田由利本荘市	基礎	未定
33回	8月20日(土)	神戸市	基礎	未定
34回	8月28日(日)	東京	基礎&スキルアップ	30名
35回	9月18日(日)	山梨市	基礎&スキルアップ	未定
36回	9月22日(木)	新潟市	基礎&スキルアップ	未定
37回	10月8日(土)	宮城県栗原市	基礎&スキルアップ	未定
38回	10月30日(日)	大分県別府市	基礎	30名
39回	11月5日(土)	熊本市	基礎&スキルアップ	50名
40回	11月12日(土)	神戸市	基礎	未定
41回	11月27日(日)	青森県八戸市	基礎	未定
42回	12月24日(土)	秋田市	基礎&スキルアップ	未定
43回	2017年 1月15日(日)	東京	基礎&スキルアップ	30名
44回	1月28日(土)	沖縄市	基礎&スキルアップ	未定
45回	2月19日(日)	東京	基礎&スキルアップ	30名



第4回 NPO 法人口から食べる幸せを守る会 全国大会 in 横浜～多職種で繋ごう“食の憩い”～

プログラム

時間	ホール	
9:40～10:00	受付開始	
10:00～10:10	開会挨拶	
10:10～11:00	基調講演	「食べたいをサポートする包括的支援スキルの成果と普及」 ●演者 小山 珠美 氏 NPO 法人口から食べる幸せを守る会® 理事長 / JA 神奈川県厚生連 伊勢原協同病院・看護師 ●座長 前田 圭介 氏 玉名地域保健医療センター・医師
11:10～12:10	教育講演	「高齢社会・人口減少社会の地域医療に挑む！」 ●演者 古屋 聡 氏 NPO 法人口から食べる幸せを守る会® 副理事長 / 山梨市立牧丘病院・医師 谷合 久憲 氏 JA 秋田厚生連由利組合総合病院・医師 ●座長 竹市 美加 氏 NPO 法人口から食べる幸せを守る会® 副理事長 / ナチュラルスマイル西宮北口歯科・看護師
12:10～13:20	昼休憩	
13:20～14:10	一般口演	「包括的支援チーム活動の成果」 ●座長 社本 博 氏 南相馬市立総合病院・医師 <div style="float: right; background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; border-radius: 5px;">熊本地震支援活動報告！</div>
14:20～15:10	特別講演	「誤嚥性肺炎に対する早期リハビリテーション」 ●演者 百崎 良 氏 東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座・医師 ●座長 若林秀隆 氏 横浜市立大学附属市民総合医療センター・医師
15:10～15:30	休憩	
15:30～17:30	シンポジウム	「食を支える包括的支援チーム」 ●シンポジスト 安田 広樹 氏 医療法人桜十字病院・医師 清山 美恵 氏 一般財団法人 調和リハビリテーション振興財団 調和会記念病院・歯科医師 寺本 千秋 氏 紀州リハビリケア訪問看護ステーション・作業療法士 山路 雅美 氏 田中病院・管理栄養士 藤巻 恵梨子 氏 社会福祉法人 一真会 花むつみ・介護福祉士 当事者ご家族 ●座長 藤本 篤士 氏 医療法人 漢仁会 札幌西円山病院・歯科医師 大石 朋子 氏 元神奈川県立保健福祉大学・看護師
17:30～17:40	閉会挨拶	
18:00～18:30	理事会	
18:30～20:30	懇親会（同会場）	

企業展示

※プログラムは一部変更予定です

2016
MAY
Vol.7

発行日：2016年5月13日

発行責任者：NPO 法人口から食べる幸せを守る会®

※本会報誌の無断コピーや使用については著作権の関係上、固くお断りいたします。

Copyright© 2013 口から食べる幸せを守る会®. All Rights Reserved.